

# ボランティア OSAKA



ボランティアサークル 木曜会

第3号

'95/AUTUMN

●発行●  
(福)大阪府社会福祉協議会  
大阪府ボランティアセンター

特集

企業ボランティアを考える

第4回 おおさかボランティアフェスティバル

## 特集

# 企業ボランティアを考える

## なぜ企業ボランティアなのか

企業ボランティアが盛んになってきた。働き盛りの管理職やOLが、障害者や高齢者の施設を訪問し、職員とともに介護にあたる。地域の清掃や祭に会社ぐるみで参加する。留学生をはじめとする外国人との交流。これら国内の活動のみならず、貧困にあえぐアジア、アフリカ諸国など、海外にも支援の手をさしのべる企業もある。ボランティアの分野は、福祉、環境、教育、国際交流など多岐にわたり、それぞれの企業が独自の方法で取り組んでおり、その内容は多種多様だ。

なぜ、企業ボランティアを行うのか、各社にその理由を問うと、「地域との共生」「豊かな人づくり」「お客さまへのサービス」等など、実にさまざまな回答が返ってくる。まだまだ多くの課題を抱えているのは事実だが、企業のボランティア活動は、一過性の流行や、単なる企業のイメージアップの域を超えて、確実にその広がりを見せていく。 ↗

## 海外での企業活動に学ぶ



このように企業ボランティアが盛んになった背景には、日本企業の欧米進出がある。とくにアメリカでは、企業も社会の一員（企業市民）として、積極的に社会活動を行っている。お国柄といつてしまえばそれまでだが、いくら良い製品を作り、安く提供しても、それだけでは地域住民からは認められないという。コミュニティでの活動がなければ、企業も個人も尊敬されないし、地元で不評を買うとビジネスはスムーズに運ばないのである。

仕事ばかりに熱心で、地域活動をおろそかにする邦人の姿は、現地ではよほど奇異に映ったに違いない。エコノミックアニマルなどと揶揄され、顔の見えない日本人と不気味がられたのは記憶に新しいところだ。当時、「まじめに働くのがなぜ悪い」と日本国内の反論もあったが、日本人ビジネスマン、企業戦士のゆとりのない働きぶりについては、誰もが認めざるを得なかつたのも事実である。

## 「会社人から社会人へ」

海外では経済活動による摩擦が生じ、国内でも過労死や家庭の崩壊などが表面化して、深刻な社会問題に。このような中で、それまでの企業活動の方に、疑問を投げかける声が、企業の内外から高まってきた。

80年代後半には、「労使ともに『もつと』ゆとりのある働き方をしよう。仕事一辺倒ではなく、個人の趣味や生きがいを見出だせる生活を実現しよう」と動き出したのである。

労働時間の短縮が進み、企業人の関心が会社と仕事を以外にも向けられると同時に、消費者（市民）の企業に対する視線も厳しくなってきた。公害を出さない、安全な製品を提供するといった「社会的責任」を果たすだけでなく、なおかつ、どのように「社会的貢献」をしているのかに関心を寄せるようになつたのである。

もはや企業は、これまでのように利益を上げて会社を大きくし、社員を雇用して福利厚生面を充実させるだけでは、本当の意味での良い会社とは見られなくなつた。社会から信頼される企業になるためには、企業も社会の一員としての活動の必要性が問われ出したのである。その結果、1990年以後、社会貢献を推進するための専門部署を設置する企業が続出。企業人も、本当の意味での”ゆとり”ある生活を考える中で、両者を結ぶキーワードとなつたのが、ボランティア活動であった。多くの企業人がボランティアに参加するなかで、「会社人から社会人へ」の転身の必要性が認識されるようになつたのである。

## 汗を流す活動も



現在、企業のボランティア活動は大きく2つに分類できる。一つは企業が、会社の名において行うボランティア活動だ。寄付をはじめ、本業を生かしたボランティアを行う企業も少なくない。モノや金を提供するだけでなく、さらに一步進めて、社員が「汗を流す」活動も増えている。例えば、メーカーでは、福祉施設に技術者を派遣し、機器類のメンテナンスを行うところもある。ある浄水装置メーカーは飲料水の確保に困っているケニアに、自社の製品をプレゼントし住民の健康を守っている。また、ボランティアの資金を集めるために、社員が一丸となってバザーやイベント開催に取り組む企業もある。大手企業の中には、ボランティア啓発セミナーや学習会を定期的に催し、社内に手話講座や点字サークルを設ける場合も少なくない。

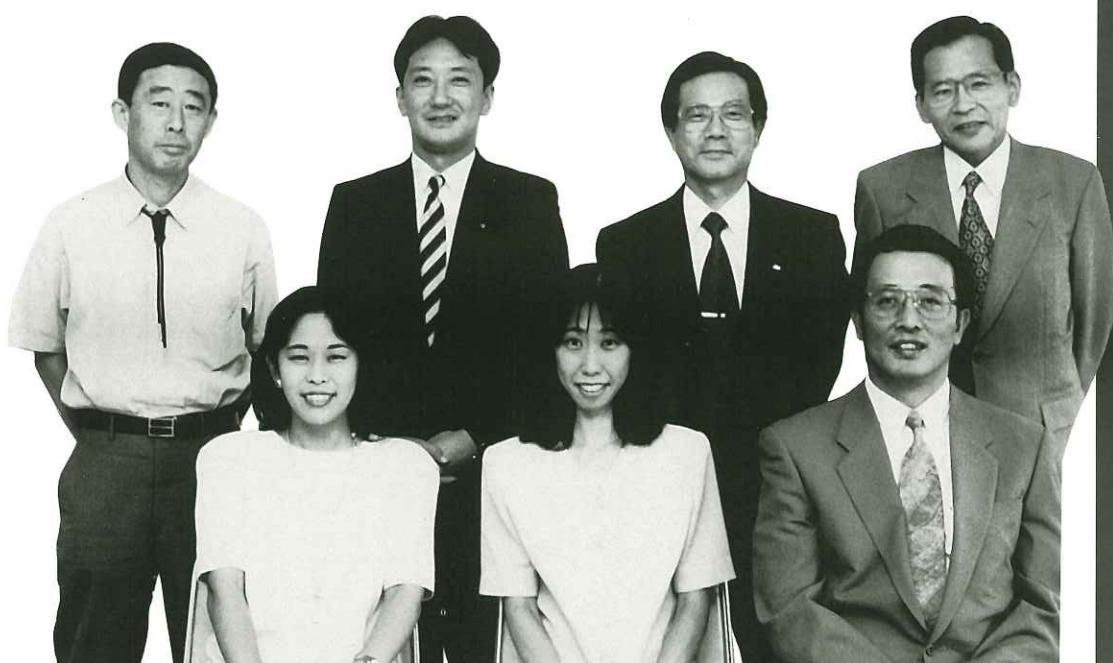
そして、二つ目は社員が個人の立場で行うボランティア活動を企業が支援する活動だ。ボランティア休暇・休職制度や、社員がボランティア団体などに寄付する時に会社も同額寄付するというマッチングギフト制度、表彰制度などが導入されてきた。これらの支援体制が整備されてきたことで、誰もが気軽にボランティア活動に参加できるよう、情報の収集と提供にも力が注がれている。

実際にボランティアを体験した企業人の多くは、「社会の役に立つ喜びを味わい、感動した」という。会社から社会に出て、さまざまな人々に出会うことでも、自分自身が成長したと実感した人も多い。社会から信頼されるグッドカンパニーを目指して、これからも企業ボランティアは、ますます盛んになっていくだろう。

公開！

# 私たちの会社の企業ボランティア

## 座談会



### [出席者]

関西電力(株)・地域共生本部地域共生グループ課長 絹川正明さん  
三洋電機(株)・社会業務センター社会文化課 田上玲子さん  
松下電器産業(株)・社会文化部副参事 石井 純さん  
住友生命保険相互会社・社会広報課ヒューマニー推進事務局 横谷 薫さん  
大同生命保険相互会社・広報部社会活動推進担当課長 山元弘久さん  
大阪ガス(株)・人事部いきいき市民推進室 星見 享さん

(発言順)

### [司会]

大阪府社会福祉協議会・ボランティア振興課長 山崎明彦

## 特集

## 企業ボランティアを考える



関西電力（株） 絹川正明さん

社員の「クオリティ・オブ・ライフ」を支援する。今日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。まずは自己紹介をかねて、それぞれの企業のボランティア活動の取り組みを、社内の体制、基本的な考え方を含めてお伺いしていきたいのですが…。

絹川

関西電力では1993年に「地域共生本部」という部署を新設しまし

# 各社で進む 「ボランティア担当部門」の新設

## 全社員ベースで ボランティア保険に加入

田上 三洋電機では91年に労使による「快適創造委員会」というのを発足させて、地域社会や環境との共生をより図っていく」というのがこの部署を新設した理由ですが、現在はその中の「地域共生グループ」が中心になつて、社会貢献や社員のボランティア活動の支援を行つています。具体的な活動としては、独居老人宅の電気設備の点検をしたり、障害者を招いてコンサートを開催するなどの「会社として社会貢献活動」に取り組むほか、社員がボランティア活動のために休暇をとることができ、「ボランティア休暇・休職制度」や、社員が福祉団体などに寄付する場合に会社からも同額の寄付を行う「マッチングギフト制度」などを設け、社員が、個人でもボランティア活動をしやすい「環境づくり」を行つています。

当社の場合、こうしたボランティア活動で基本としているのは、あくまで「社員の全体としての生活の質の向上を図つていこう」ということなんですね。いくら「地域活動やボランティア活動が必要だ」と言つたところで、個人の生活にゆとりがなく、どっぷりと仕事につかっている「会社人間」では無理なこと。フレッシュアップ制度や介護休職制度など、ゆとりや家庭生活の支援制度も導入し、全体として社員

個人の「クオリティ・オブ・ライフ」を支援する。ボランティア活動もそんな一つとして位置付けています。

当社でも、個人の活動をボランティアの基本に据えていますが、まだまだあるが、踏み出せなくて…」という声が多いのも現実。そのため昨年から、ボランティアのきっかけづくりとしてセミナーを実施して、車椅子・アイマスクの模擬体験、養護学校での体験学習などを行っています。

## 自社の機器を使い、 点字情報の提供も

石井 関電さんも三洋さんもボランティア休暇制度を導入しておられるのですね。松下電器には休業制度はあります。休暇制度はないんです。というのも、当社では93年に労働時間を年間1800時間に短縮するとともに、年間休日を126日増やしました。ます

個人の自由な時間を会社として増やす。ボランティアは自分の自由時間の選択肢の一つということで、あえてボランティアを目的とする休暇制度を設けていないのです。

それはともかく、91年に、社会貢献をいわゆる「陰徳」としてではなく、もつと積極的な活動として展開していくと「社会文化部」という部署をつくりました。ここで、さまざまなボランティア活動の企画やメセナ（企業の文化支援）に関する催しなどを開催しています。例えば、社内のボランティア・スタッフが運営し、収益を大阪コ



三洋電機（株） 田上玲子さん

ミニティー財団の基金に寄付して障害者の文化活動に役立てている「チャリティ・コンサート」や、エレクトロニクス技術を生かし、点字翻訳システムという自社の機器を使って点字情報の提供を行う「点字情報誌ボランティ

ア」など。その他「ボランティアはしたいけど…」という社員の要望に応えて2ヶ月に1回、知的障害者更生施設の府立金剛コロニーで、1日あるいは1泊2日の体験実習を開き、活動のきっかけづくりを行っています。

## お力ネではなく、従業員自身が地域で汗を流すことの大切さ

### 本社各部・支社の約9割がボランティア活動

各社ともさまざまな部署を新設して活発な活動を展開しておられます



住友生命保険相互会社 横谷薫さん

### ゆうあいピックに特別協賛・ボランティアで参加

大同生命さんも、以前から社会貢献活動には熱心ですが…。

横谷 はい。91年に(財)住友生命社会福祉事業団・(財)住友生命健康財團・いづみホール等従来から実施してきたものを含め、当社の社会・文化貢献活動を総合的に企画調整する部門として設置されました。それを機に92年からこれが事務局となり、従業員に地域社会にもっと目を向けてもらおうということで「ヒューマニー活動」を開きました。会社としては社員一人ひとりが地域で汗を流す、すなわち「労力と

時間提供する」というのがこの活動の趣旨なんですね。

本社の各部や全国にある支社のうち

約9割が、単独または合同で活動をしていますが、地域の清掃、イベントやお祭りの手伝い、ベルマークや古切手・テレカ等の収集もの、福祉施設でのお手伝いや交流等々、さまざまにお手伝いしています。取り組みはあくまでも従業員の自主参加が前提で、取り組み単位ごとに推進委員会を設置し、推進委員が中心になって活動の企画運営を行っています。事務局は情報活動の取りまとめや結果のフィードバック、情報提供等歯車回しに徹していますが、実際の活動では事務局が頭を作ったメニューを超えて、工夫を凝らしたアイデアが出てきています。

### 70年代からボランティア活動をスタート

最後になりましたが、「小さな灯運動」などボランティア活動では豊富な実績がある大阪ガスさんの取り組みということ…。

星見 私どもでは、企業のボランティア活動を1970年頃から開始しました。サービスのレベルアップということで、営業活動の必要上はじめたとい

ます。昭和40年代に厚生事業団をつくり、医療従事者に対する奨学助成、また国際文化基金を設立してメセナを行うなどの活動を展開してきました。社員のボランティア活動の支援については、休職休暇制度を生命保険業界の中ではいち早く導入しましたが、その他、会社としては92年より、全国の知的障害者スポーツ大会(ゆうあいピック)に毎年特別協賛を行い、加えてボランティアとしてもこれまで1200名が参加しています。他にもさまざまな取り組みがあり、当社独自でボランティア体

験活動プログラムを年間4~5本実施しているのもその一つで、現在は障害を持つ方が働く作業所の外出介助などを行っています。



大阪ガス(株) 星見享さん

うのがそもそもものきつかけなんです。けつして高邁な精神があつたわけじゃない（笑）。奉仕活動として視力・聴覚障害のかた向けの料理講習会、独居老人宅のガス設備の特別安全点検などに取り組み、すべて勤務扱いで実施していました。その後、社員がフリーライムを使って、自らが挑戦したいボランティア活動をしようということで始まつたのが「小さな灯運動」です。これは81年にスタートしていますが、活動内容としては点訳ボランティア、児童施設訪問、チャリティコンサートなどで、これらはいまも続いています。

そして93年には「いきいき市民推進室」を設置し「会社人間から社会人間に」をスローガンに、地域に役立つ社員の育成に努めているところです。

活動支援制度としては、1ヵ月～2年4ヵ月間のボランティア休業制度が

あります。一方、社員に対する啓発活動として参加する場合やP.T.A活動など、さまざまな活動に利用されているよう

あります。一方、社員に対する啓発活動としてボランティアセミナーを開催するほか、自閉症セミナー、牛乳パックなどを利用したりサイクルクラブ教室、救命救急講座、カウンセラーエント講座など、ボランティアに役立つさまざまなセミナーを実施しています。それらをコーディネートするのが私の役目なんですが、いまは社内の囲碁・将棋などのサークルが阪神大震災の被災地の仮設住宅を訪れ、碁を打ったり将棋をさしたりしながら高齢の方々に楽しいひとときを提供しています。

あり、この制度を利用して知的障害児施設や精神薄弱者更生施設で活動した社員もいます。また短期の休暇制度としてはコミュニティ休暇制度というのがあり、地域のスポーツ大会へ審判として参加する場合やP.T.A活動など、さまざまな活動に利用されているよう

## ボランティアを通して 「会社以外の世間」が見えてくる

ボランティアの世界では  
どんな役職かなんて関係ない

ざつと各社の取り組みをお聞きしたわけですが、次に皆さんご自身のボランティア体験、またボランティア観などを伺いたいのですが。

田上 私は学生時代からボランティア活動の経験があつて、施設で脳性麻痺

島根県のある村に行ってきたんです  
が、自分も何かが得られるのがボランティアなんだ…と、実感しました。



横谷 同感ですね。私の場合、入社してすぐこの部署に配属されました。そこまではボランティアにはまったく縁がありませんでした。だから最初は

そこで「まずは自分が体験してみないと…」と思い、他社のセミナーや体験プログラムに参加していきました。初めて金剛コロニーへ体験実習に行く前日晚は緊張して寝られなかつた（笑）。でも実際にやってみると、緊張したほどでもなく、何度か体験するうちに抵抗がなくなつていきました。この部署に配属されたことで私自身今まで知ら

## ボランティア活動の中で 「営業の根本」を見出す

なるほど。ボランティアによつて社員個人が豊かになる…というのたしかにあるわけですが、それを最近の企業は社員に積極的に勧めています。さらに、社員が地域社会とコミュニケーションを取ることが結局は企業にメリットをもたらす…と企業自身が考えているのではないか、とも思えるん

なかつた世界に接することができます、視野が広がつたと思います。

絹川 ボランティアの世界では、その人がどんな会社に勤めているか、どんな役職か…なんていつさい関係ないんですね。そういうことって、企業社会にどっぷりとつかつていた人間にとつては大きなショックなんですが、でも、そこで初めて、世の中にはいろんな人がいるんだ、いろんな世界があるんだ…ということが分かつてくる。そして「社会性を持つ」とか「価値観の多様化」といったことがどういうことなのか…が、実感として理解できるようになると思うんです。

横谷 そうですね。当社は転勤族が多いせいか、地域との結びつきを持つて生きている人が少ないよう思うんです。でも、会社のネットワークだけでも生きていくより、社会とのつながりをもつている方が幅広い人間になれると思う。だからできるだけ多くの方に、ボランティアに限らず会社以外の世界にも目を向けてほしいと思っていま

社の社員が「社会を知っている人間」か「会社しか知らない人間」かの差は大きいと思います。しかしそれを強制

してはいけない。  
—— それも大きな問題ですね。そのあたりについて他のみなさんは……。

がきっかけになることもある。そういう意味でも、社協さんには、企業人と

ボランティア活動を結ぶ「つなぎ」の役割をもつと担つていただけたら……と思います。

それはともかく、私は「企業ボラン

## みんな、心のどこかに ボランティアマインドを持つている



### 求められる、きつかけづくり

山元 もちろん強制をしてはいけない  
んですけど、きっかけがあれば、みんな  
気軽に参加してくれるのも事実なんで



ですが、そのあたり、すなわち営利の追求を第一義とする企業のこうした動きを、私たちとしては、どう理解しておけばいいんでしょう。

石井 私は、営業活動もボランティア活動も、本質的には一緒だという気がしているんです。10年間ほど営業部門において「お客様第一主義」というのを唱えてきましたが、ボランティアを体験して、そのことの意味がわかりかけてきたような気がしています。「お客様第一主義」というのも、要はボランティアで「相手に心を開き、素直な気持ちで接する」ということと同じなんですね。

絹川 同感ですね。企業にとって、自



大同生命保険相互会社 山元弘久さん

### ボランティアの体験を 生かせば、社会のニーズに 合った仕事ができる

星見 きっかけづくりというのは、た

マインドは企業活動にビルトインできるものでこそあれ、対立するものではない。営業の根本を、ボランティア活動の中で発見させていたいたいような気がしています。

そんな意味からも、ボランティア・マインドは企業活動にビルトインできるものでこそあれ、対立するものではない。営業の根本を、ボランティア活動の中での発見させていたいたいような気がしています。

—— 大阪ガスさんでは従業員の7割  
しかに大切です。マインドはあるが、  
いきなり地域のサークルに入つて……とい  
うのは垣根が高い。そんな人たちに  
とつて企業の啓発活動のほかに「ボラ  
ンティアおおさか」のようなメディア

すね。当社では92年に「社会貢献の会」  
というのをスタートさせたんですが、

これには関連会社を含めて1万人弱が  
参加しています。そして、ここで募金  
活動をしたら、1年半で6000万円  
の募金が集まりました。そこから1施  
設30万円単位で全国285か所の小規  
模作業所に寄付させていただきました  
が、今年に入つて「ボランティア友の  
会」というのを結成したところ、これ  
には大阪本社を中心に120名以上の  
方たちが参加してくれました。要は、き  
つかに出会うかどうかなんですね。

—— それも大きな問題ですね。そのあ  
たりについて他のみなさんは……。

び付いているのかもしませんね。

**横谷** 従業員の7割が何らかの活動をされているのは素晴らしいですね。当社の場合は「きつかけがつかめない」という声を受けて、いまのところ会社が音頭をとっているわけですが、その

社会へのダイレクトな貢献プラス、  
本業のフイナンスロビーの向上

社協が行政・企業・NPOのネットワークづくりを

——なるほど。さて、企業ボランティアというと、さまざまな活動を、いわば”専門的”に展開している多くのNPO（民間非営利団体）や、草の根のボランティア団体・グループと”連携して”プログラムが実践される場合が少なくありません。この、草の根のボランティアグループとのパートナー・シップについてはいかがでしようか。

らともかく、草の根のボランティアグループには残念ながら、なかなか与えてもらえない。そこで、企業の持つ「信用」を、ある意味でボランティアグルーピーや市民が活用していくば、企業単独ではできない、またボランティア

企業ボランティアとはNPO的な発想を持ち行動すること

石井 同感ですが、私は企業ボランティ

ではなく、行政という第1セクターを含めた、3つのセクターが互いにパートナーシップを發揮していくシステムとそのためのネットワークをつくりを、ぜひ社協さんにしていただきたいと思っています。

アグループやボランティア団体単独でもできない、市民をまきこんだ大きな活動やプログラムができると思うんです。ともあれ、企業がいろんなNPOなどどう手を結んでいくか：は大きなテーマで、私は、そうした局面で協調さんが果たされる役割もますます大きくなつっていくと思うんです。そして個人的には、企業という社会の第2セクターネットワークやボランティアアグループなど、企業と一緒に地域社会を活性化させていくことをめざして、今後も活動を続けていきたいです。

際には”大義“が必要な場合もあるんです。でも基本は、やはり個人の熱い思いだと思います。私たち企業の担当者としては、悩むところではあります



松下電器産業（株） 石井純さん



## ボランティア体験実習に参加する 社員たち



大阪府社会福祉協議会 山岸明彦

——なるほど。企業ボランティアには、社員個人が地域社会でいろんな役割を果たしていくという面と、企業人として本業にいかに社会貢献の視点を持ち込むかという2つの面があるというわけですね。いずれの場合にせよ、社協としては企業ボランティアにますます期待していますし、また「指掲いたいたように、そこに果たす社協の役割もますます大きくなつていくだろう」と痛感いたします。

阪神大震災後、にわかに注目を浴び始めたボランティアおよび企業ボランティアですが、活動を地についたものにしていくためにも、これからもさまざまな情報交換とパートナーシップの発揮をお願いしたいと思います。今日は長時間、どうもありがとうございました。

気製品に点字が「ぐ」とはなった。これはやはりボランティアで視覚障害者と接し、目の不自由な人のライフスタイルが分かるようになつて初めて出てくるアイデアだと思うんです。つまり企業が、商品開発においてNPO的な発想を持ち、行動した。結局、企業ボランティアに意義があるとすれば、本業におけるフィラソロピー・マイ

イアとは、企業が「NPO的な発想を持ち行動する」ことでもあるとも思うんです。そして企業が社員のボランティア・マインドを醸成することによつて、社会のお役に立つと同時に、本業へのフィードバックも生まれてくる。当社の例で恐縮ですが、いろいろな電

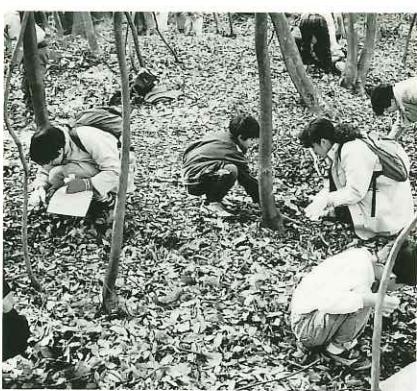
は、社員個人が地域社会でいろんな役割を果たしていくと、企業人として本業にいかに社会貢献の視点を持ち込むかという2つの面があるとうわけですね。いずれの場合にせよ、社協としては企業ボランティアにますます期待していますし、また「指掲いたいたのように、そこに果たす社協の役割もますます大きくなつていくだろう」と痛感いたします。

阪神大震災後、にわかに注目を浴び始めたボランティアおよび企業ボランティアですが、活動を地についたものにしていくためにも、これからもさまざまな情報交換とパートナーシップの発揮をお願いしたいと思います。今日が長時間、どうもありがとうございました。

# マッチングギフトや特別加点制度で、社員の活動をバツクアップ。



井戸掘りボランティア



小白方さんが運営に携わる「自然かんさつ塾」。

● ●

富士ゼロックスは90年10月に社会貢献推進部を設け、経営資源である人・モノ・カネ・技術・情報をどうぞ、より良い社会づくりに活用しようとする姿勢を積極的に打ち出した。

そして、同部が中心になり『端数俱樂部』を発足。これは給料とボーナスの端数（100円未満の金額）に、会員が1口100円の加算金を上限99口まで申請しておき、給料から自動的に引き落とされるというシステム。そして、それを活動資金に当てるというユニークなものだ。

「参加はあくまで社員個人の自由。

運営委員会で活動内容を決めていきますが、アジアでの井戸掘りボランティア、障害者を音楽会へ招待するなど、社会福祉、教育、環境、文化、国際交流など多岐にわたっています。これら独自の活動に加え、NPOへの寄付もしており、会社のマッチングギフトと合わせると2倍の額が寄付できます」と、用紙担当課長で同俱楽部大阪地区委員の小白方信雄さんは語る。

小白方さんはボランティアを始めてもう4年目になる。顧客に再生紙の利用を勧めるという仕事柄、紙のリサイクルについて勉強したのがきっかけだ

「自然かんさつ塾」や「リーダー養成講座」などの企画立案をし、限られた予算内でスケジュールを立て、講師を選び会場を設定する。主婦や学生ボランティアとともに準備を進めながら、活動のなかでさまざまな人たちとの交流が深まり、社外にもたくさん友人ができたという。昨年は、黄土高原に植樹を推進している団体のワーキングツリーに参加し、中国に行ってきた。

「一家の年収が3千円という地域なんですが、子どもの瞳は輝いているし、豊かさってみんなおおらかで明るい。豊かさって手伝いをしています」と語る。

「自然かんさつ塾」や「リーダー養成講座」などの企画立案をし、限られた予算内でスケジュールを立て、講師を選び会場を設定する。主婦や学生ボランティアとともに準備を進めながら、活動のなかでさまざまな人たちとの交流が深まり、社外にもたくさん友人ができたという。昨年は、黄土高原に植樹を推進している団体のワーキングツリーに参加し、中国に行ってきた。

同社では、ボランティア活動に参加した社員に対して、年2回、賞与の支給時に本給の10%を加算して支給するという特別加点制度を設けてバツクアップ。さらに「ソーシャル・サービス制度」というボランティア休暇制度も導入。6か月以上2年以内の期間、有給で社会奉仕活動などに参加することが認められている。

## 富士ゼロックス株式会社



小白方は、中国・黄土高原の植樹にも参加した。



小白方信雄さん  
「ひと口にリサイクルといつても、ごみ、資源、環境問題などを複合的にどうぞ」と語る。



一方、同僚の小澤哲課長は、奈良リトルリーグの世話ををして19年になる。



奈良リトルリーグの子どもたち。「成長が楽しみ」と小澤課長は語る。

## 特集

## 企業ボランティアを考える



神崎川周辺の清掃を行う社員たち。

一方、会社としての取り組みにも積極的だ。資生堂の生産部門を担当する同社では、「地域との共生」をテーマにさまざまなプログラムを実施している。当初は、社員が参加しやすい時間帯を考えて、金曜日の夕方に清掃を行っていたという。ところが、休みが明けて出勤してみると、またごみの山。続けるうちに、意氣消沈してしまったの

資生堂には、社員が個人的にボランティアに参加する日を「社会へ出勤」とする日と位置付けた「ソーシャルスタディーズ デー制度」がある。取得できる日数は年間3日。対象となるのは、障害者や老人の介護、骨髓や腎臓などのドナー登録や提供、自治会やPTA参加などの地域社会との交流、福祉・教育・環境美化などの研究会や会合への参加など多岐にわたる。「社会へ」出勤するわけだから、もちろん有給だ。申請も簡単で、所属長の承認があればいつでもOK。

一方、会社としての取り組みにも積極的だ。資生堂の生産部門を担当する同社では、「地域との共生」をテーマにさまざまなプログラムを実施している。当初は、社員が参加しやすい時間帯を考えて、金曜日の夕方に清掃を行っていたという。ところが、休みが明けて出勤してみると、またごみの山。続けるうちに、意氣消沈してしまったの

## 「社会への出勤」と位置付けて、ボランティアマインドを育成。

大阪資生堂株式会社



サマーフェスティバルは地域の自治会との共催で。盆踊りの準備にも社員が積極的に関わる。

る。その一つが、工場近くの神崎川河川敷の清掃。散歩や休憩にはもってこいの場所だが、ごみの散乱は目を覆うばかりだった。きれいにすれば、地域の人々にもっと快適に使ってもらえるのではないか。そんな思いから、3年前に清掃ボランティアを始めた。週に一回、就業時間内に行っている。

これらさまざまな活動がスムーズに行えるよう、会社を「社会貢献連邦」とみなし、すべての社員が何らかのメニューに参加するユニークな組織作りも行っている。



出店では地域の人々との会話をはずむ。

「盆踊りの櫓を組んだり、出店の準備をするなかで親しくなった町会の人とばったり飲み屋さんで合うこともあります。そんな時は、仕事を離れ、地域のあれこれについて話の花が咲きます。企業ボランティア活動がなければ、ご縁のなかつた方たちですから、顔の見えるお付き合いの大切さを実感します」。

阪神・淡路大震災をきっかけに、災害時における地域活動も考えるようになった。万が一の時には、日頃の地域とのコミュニケーションの成果が發揮される。そういう意味でも、同社の地域密着型の活動は重要だ。

## 「社員と社会に良い会社」を目指し、 労使一体で多彩な活動を推進。

### コマツ

● ●

阪神・淡路大震災で瓦礫と化した街の救援活動に活躍したのが大手建設機械メーカーのコマツだ。大型建設機械はもちろん、オペレーターとメンテナンス担当のサービスマンを延べ100名、被災地に派遣。本業を生かしたボランティアの見本といえよう。

また、同社ではグラウンドや体育館などの社有施設を地域に開放。ラグビー、サッカー、バーチボール、テニスなどのサークルに提供してきた。社員がボランティアのコーチとして参加する場合も少なくない。枚方市在宅福祉センターが5月に行つた「ふれあいスポーツ交流会」では、社有施設を開放するだけではなく、30名ほどの社員が運営をサポートし、知的障害者と交流した。

「本当の意味でのグッドカンパニーを実現するためには、社員に対して良い会社かどうか、社会に対してもいい会社かどうか、この二つの視点が欠かせません。また、これらを追求するなかで社会貢献の一つとして企業ボランティアがクローズアップされてきました。しかし、ボランティアは各々の自



「ふれあいスポーツ交流会」には約30名の社員がボランティアで参加。

ところで、コマツのボランティアの歴史は、同社の労働組合の活動から始まつた。1973年に「社会や地域とのふれあいを目指して」、募金活動や集団献血運動をスタート。

「当時は、世間一般に生産効率や利益率が優先され、良い会社とは強い会社であるという風潮でした。そのためボランティアへの取り組みも組合と社員個人のレベルにとどまっていたんですね」と藤田さん。

コマツユニオン大阪支部では、心身障害者の旅行の介助、工場周辺の清掃、チャリティバザー、書き損じはがきやロータスクーポンの収集など、多彩な活動を展開。ボランティア啓発セミナーや研修会も行つてきた。さらに、上部組織のプログラムにも積極的に参加。ゼンキン連合大阪の「みんないきいき・ボランティア」もその一つだ。「今年は大阪湾クルージングに障害者の方をご招待し、外出の機会が少ない皆さんに楽しんでいただきました」と、コマツユニオン大阪支部書記長の長岡壮壽さんは語る。

このように、同社では労使が一体となつたボランティア活動を今後も展開していく考えだ。



障害者を招いて大阪湾をクルージング。



## 特集 企業ボランティアを考える



地域の人々に開放されている玄関ロビー。

「建築はさまざまな分野の人が共同で行う仕事ですから、異分野の方々とのコミュニケーションがスムーズに運ばないと良いものは完成しません。このスペースで地域の方々と積極的にふれあうことで、新しい発想も生まれると期待しています。『これから建築業はサービス業であらねば』」という社長の発想から生まれた空間です」と、同企画開発部の油谷雅次課長は語る。

企業ボランティアというと、大企業の活動が話題になることが多い。しかし、中小企業の中にもボランティア活動を積極的に進めているところもある。岸和田市にある社員数約150名の才門建設株式会社では、無理なく自然体で、企業ボランティアを推進している。

同社は5年前、社屋を建て替える際に玄関ロビーのスペースを広くとり、地域社会とのコミュニケーションを図る場として、地域の人々にも開放している。

中庭に面した窓から陽光が降り注ぐロビーは、洗練されたリゾートホテルのようなインテリアで、10数脚のテーブルが置いてある。設計図を広げクライングと社員が打ち合わせしているテーブルもある。

「窓室でヒソヒソ商談をやるより、オープンな場でやる方が開放的な気分になれるし、会社人間ではなく社会人としての感性が出せるメリットがあり

## 玄関ロビーを開放し、会社と地域社会との交流スペースに。

### 才門建設株式会社

ます」。

玄関ロビーはときには催し会場にもなる。チャリティバザーやコンサート、陶芸、現代アートの作品展などを開催したこと。

また、駐車場も地域の納涼大会を開放し、焼き鳥、おでん、金魚すくいやヨーヨーコーナーを出店。社員も手作りで参加しているが、パンを作る障害者の作業所にも出店してもらつたことで、障害をもつ人たちとの交流が深まつたという。

さらに国際交流にも積極的である。かつての朝鮮半島との交流を再現する祭である「四天王寺ワッソ」に初回から参加。社員がボランティアで舟だんじりの曳航を行っていた。さらに今年は、祭囃子の演奏も担当。専門家の手ほどきを受けて、韓国の伝統音楽の練習に励んだ。

このような同社だけに、社員個人の自発的なボランティア活動も盛ん。不慮の事故で障害をもつ身になった営業部の和田行博さんは、リハビリの水泳

を通して知り合った仲間といつしょに組織をつくり、近畿、全国と水泳大会を開くうちに、とうとうソウルパラリンピックに出場。そして、今年はアトランタプレパラリンピックに選手団長として参加した。

このように、同社は企業ボランティア活動を進めることによって、社員の社会活動も盛んになった。また、地域の人々にも喜んでもらい、企業イメージもアップしたようだ。



玄関ロビーで行われたチャリティバザー



「四天王寺ワッソ」にも初回から参加。



アトランタプレパラリンピック。

## 高齢者だからこそ、 高齢者の気持ちが分かる！

東大阪市◆『若竹会』



軽い体操で体をほぐした後、定例会にのぞむ若竹会の皆さん。

「高齢者の高齢者による高齢者のためのボランティア」を合い言葉に、東大阪市在住の60歳以上の高齢者約50人が元気に活動を続けている『若竹会』。10年前、東大阪市社協の「高齢者ボランティア教室」を受講した人々が「学んだことを生かそう」と19名で会を結成。当時はまだ珍しかった在宅福祉のボランティアに取り組んできた。

からだが不自由だったり病気がちな独居老人宅を訪問し、話し相手や外出介助をするのが活動の主な内容。その他、入院先を訪れ、衣類の洗濯・買い物をしたり、さまざまな福祉関係の催しの手伝いなども引き受けている。

「会員の中には以前大病を患つた人もいる。」けつして他人事ではない「という気持ちがあるからこそ、お世話を

親身になつてできるんです」と会長の庫本敬太郎さん。月1回の例会時に、社協を通じて依頼があつたケースを会員に紹介。「家が近いから」「病院に薬をもらいに行くついでがあるから」など、会員たちが気軽にさまざまなケイスを引き受けていく。ちなみに平成6年度の若竹会のボランティア派遣回数・派遣人数は、延べ891回・1103人。会員すべてがフルに活動していると言つていい。

カラシ色のユニフォームを着たスタッフの一人が介護用の手作りパジャマの特徴を説明する。フロアの中央では他のスタッフたちが少し恥ずかしそうにモデルを……。

門真市の「老人介護講座」修了式に開かれた手作りファッショニングショー。シヨーを担当しているのは、この日、老人介護のボランティアグループの紹介をかねて同講座に招かれた『若葉会』の仲間たちだ。

平成元年に数名の有志で会を結成。現在では会員も60名に増えた。50代の主婦を中心に会員はみんなとてもパワフル。特別養護老人ホームの高齢者の外出介助、デイサービスセンターでの入浴介助に携わる他、それらの活動経験を生かし、からだが不自由な人のためのエプロンやパジャマ・車椅子用レインコートなど介護用品の注文・製作にもあたっている。

エプロン、パジャマなどのオリジナル介護用品を販売する若葉会の皆さん。

## 使う人の立場に立った介護用品を製作

門真市◆『若葉会』

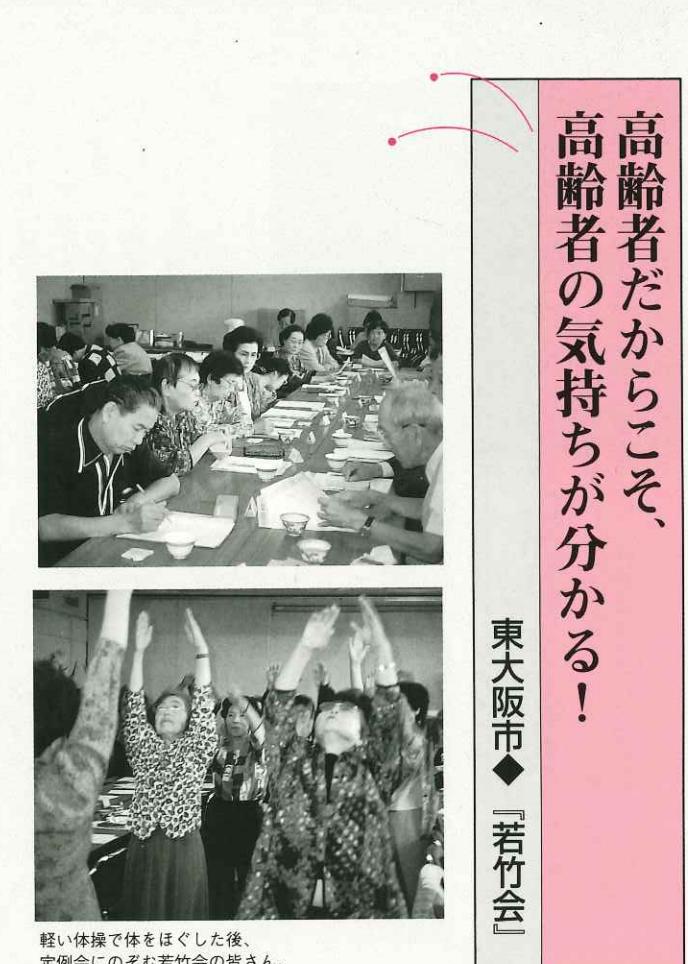


お年寄り宅を訪問し、話相手に。

然に人に優しくなる。自分を頼りにしてくれる人がいると思うからか、訪問するときは気持ちもからだもシャンとします」と他の会員たちも語る。

「東大阪市はエリアが広く、地域によって在宅福祉・在宅介護の考え方もあり、各地域のニーズによりマッチした活動を開いていきたい」と抱負を語る庫本さん。そのためにも、現在2割しかいない男性の会員を「もっと増やしたい」と話す。

気持ちはいつも「若竹」のように若々しくしなかやに——地域福祉の担い手の一つとして、若竹会の今後の活動がよりいつそう期待されている。



軽い体操で体をほぐした後、定例会にのぞむ若竹会の皆さん。



ファッションショーでは車椅子用レインコートやパジャマも披露。



ボランティアグループ「木曜会」の皆さん。毎週月曜・金曜の午後1時から4時まで、入浴後の整髪、高齢者の話し相手、おやつの準備と後片付け、リハビリの手伝いなどを担当。併設の特別養護老人ホームに入所している高齢者の買い物の付き添い・書道指導の他、さまざまな行事の手伝いなども行っています。

結成から14年。施設の職員やデイサ  
ービスの利用者、地域の人々からの信  
用度も大きい。「自分本位のボランティ  
アでは相手の方が迷惑される。決めた  
ことはきつちりこなし、心のこもった  
介助を行うことが活動のモットーです。  
と代表の北原タカさんは語る。

メンバ一は主にニュータウン内に住む  
40～70代の主婦43名。1日3人ずつで  
1カ月のローテーションを決め、交替で  
ボランティアにあたっている。

「糖尿病の方には絶対に怒ったたらダメ  
気持ちを閉ざしてしまわれる。楽しそうにご両親のことや子供の頃のことを話しておられるときは、自分も童心に返つたような気持ちで話しを聞くんです。たまに共通の体験などがあると、思わず盛り上がり上がってしまいますよ」と、メンバーハンマーの一人、広兼ケイ子さん。

「活動を通してたくさんの仲間ができた。もし自分に何かあっても助けてくれる仲間がいる、と思うと日々の生活も心強いですね」。最後にメンバーたちは会の魅力をこんなふうに語つてくれた。

デイサービスの場合、1日の利用者は約30名。痴呆症の高齢者も多い。入浴の順番を待つてもらっている間、どこかへ行つてしまわれた…ということがないよう、話し相手になつたり、浴室まで誘導したり…。木曜会の担う役割はけつして少なくない。

「助けてくれる仲間がいる」と思うことが活動の原動力に

堺市◆「木曜会」



入浴後は木曜会の人たちが準備したおやつを。

の場合、検温などに便利なように脇が

もうれしいですね」

「最初はボランティア活動に理解を示してくれなかつた夫も、今では随分協力してくれるようになりました」と話

すのは、副会長の宮川喜代子さん。  
「門真市民ならみんな知っている  
——そんなグループにまで知名度を上  
げていくのがこれから夢だ。

## シニアボランティア養成講座

企業などを退職したサラリーマン・Bには、地域において生き生きとした生活づくりを進め、新たな仲間づくりを模索している方が多いようです。大阪府社会福祉協議会・大阪府ボランティアセンターでは、このたび、こうした人々を対象に、これまでの貴重な勤労経験を生かしつつ、新たな人生への「再就職」ともいえる社会参加活動に取り組んでいたなど、「シニアボランティア養成講座」を開催します。企業や団体・行政を退職されたサラリーマン・Bや退職前の方々、ふるって同講座にご参加ください。

日 時／11月18日（土）  
10時30分～15時

場 所／大阪社会福祉指導センター  
柏原市

定 員／5階・ホール  
180人  
参加費／500円  
内 容／基調講演「シニアボランティアのすすめ」大阪市立大学生活科学部助教授 畠中宗一氏  
活動事例講演「人生80年時代を生きる」大阪市シルバーボランティアセンター所長 瀬川一人氏  
申し込み・問い合わせ／13時～15時  
大阪府ボランティアセンター  
主 催／大阪府社会福祉協議会・大阪府ボランティアセンター

豊中市内で活動する、さまざまなボランティアグループの活動をパネルで展示。手話・点字・車椅子・アイマスクの体験コーナー、手作り介護用品の展示、ボランティア相談コーナーなど。  
実施日／11月6日（月）～8日（水）  
主 催／豊中市社会福祉協議会

泉州南郡岬町

的羽エヴァ氏による講演「日本の福祉とスマイルアキアの福祉」やふれあい交流を開催します。

日 時／11月23日（木・祝）10時～14時  
場 所／岬町淡輪公民館

内 容／障害者作業所・ボランティアグループによる展示即売「ふれあいコーナー」、保健婦と福祉担当職員による「介護相

場 所／豊中市役所第2庁舎  
玄関ロビー  
問い合わせ／豊中市社会福祉協議会  
主 催／ボランティアセンター  
☎ 06-841-9393

## 市民のボランティア体験コーナー

「皆でつくるう人にやさしい福祉のまち」をテーマに、交流会やカラオケ大会・映画の上映など。模擬店やイベントも実施。

日 時／11月19日（日）10時～15時  
場 所／柏原市役所・市民会館一帯

①「ふれあいの集い」オープニングセレモニーと講演会／10時～11時30分  
②「ふれあい交流」模擬店や楽しいイベント／11時30分～14時

③「カラオケで歌おう」／11時30分～14時  
※①は来場者に抽選で粗品進呈  
☎ 0729-721-1501  
主 催／柏原市社会福祉協議会・ふれあい広場実行委員会

## 第7回 柏原ふれあい広場

富田林市

## 入門ボランティアスクール

ボランティア活動に関心のある富田林市民を対象に、基本となる知識や情報提供とともに、ボランティアの育成を目指します。

日 時／12月6日（水）、7日（木）、13日（水）、14日（木）  
午後2時～4時

内 容／ボランティア概論、車椅子の扱い方、ガイドヘルプ、在宅介護、富田林市協ボランティアグループの紹介など  
問い合わせ／富田林市社会福祉協議会  
☎ 0721-25-8200  
主 催／富田林市社会福祉協議会・富田林市ボランティアセンター

## 高齢者問題 啓発映画会

# 95たかつき ふれあいひろば



映画『午後の遺言状』

## 編集後記

■ フィランソロピー（企業の社会貢献）やメセナ（文化支援）、コーポレート・シチズン（企業市民）といった言葉が日本に上陸してから10年近くが経ちます。そして、こうした言葉と考え方方がわが国の企業社会に定着するなかで、企業のボランティア活動もここ数年、きわめて活発かつ多彩なプログラムで展開されるようになりました。当初は「宣伝のため」「イメージアップ戦略の一環」「所詮は一過性」と揶揄する向きもありましたが、そんな心配が無用であったことを、今回の特集であらためて実感しました。■さて、今号でも3つのボランティアサークルを紹介しましたが、皆さんの活動にはあらためて頭が下がります。なかでも若葉会の皆さん元気さと創意工夫の精神は、私たちも大いに見習わなければ…と感じました。（これからも元気なサークルを数多く取材させていただく予定です。本誌にて登場いただけるサークルの皆さん、ぜひご報ください。）

新藤兼人監督の映画『午後の遺言状』の鑑賞を通して、「老いるとは何か」「生きるとは何か」など、高齢者が抱えるさまざまな問題について共に考えます。

日 時／12月14日（木）  
上 映／①10時 ②12時30分  
③14時30分

場 所／高槻現代劇場文化会館中ホール  
参 加 費／一般1,300円、高齢者・障害者900円

内 容／映画会『午後の遺言状』  
問い合わせ／高槻市社会福祉協議会  
担当 松永

主 催／高槻市ボランティア連絡協議会  
電 話／0726-74-7496

内 容／福祉バザー、作業所・授産所の作品販売、海外協力活動、福祉活動啓発パンフの配布、模擬店、健康相談、その他問い合わせ／高槻市ボランティアセンター 行委員会 電 話／0726-83-2200

## 10代のためのボランティア 学習セミナーを応援します！

「青少年向けのボランティアセミナーを企画したいが、適当な講師がみつからない」「予算がないので実施できない」などで、困っている団体はありませんか。

こうした悩みに対し、全国ボランティア学習指導者連絡協議会（全V指協）では、講師を派遣したり、講師の謝礼・交通費・宿泊費などの支援を行っています。

ボランティアの講座は中学生・高校生を対象にするものであればOK。主催者の経費を抑え、しかも充実した学習が実施できます。詳細については下記まで。

全国ボランティア学習指導者連絡協議会（全V指協）

東京都渋谷区代々木神園町3-1  
日本青年奉仕協会内

電 話／03-3460-0211  
担当 遠藤

協 力／大阪ボランティア協会  
大阪市北区同心1-5-27  
電 話／06-357-5741  
担当 名賀

大和川園に通所する知的障害者のための外出介助のボランティアを募集します。

実施日・行き先・募集人員／

11月9日（木）ATC見学・4名  
11月16日（木）玉手山遊園地・4名  
11月17日（金）玉手山遊園地・4名

11月22日（水）TOYOTA オートサロン・4名

11月24日（金）金剛山登山・5名

12月 クリスマス会・3名

12月 2月16日（金）関西サイクルスポートセンター・5名

3月22日（金）さやま遊園・5名

解散时刻／午前9時50分  
集合場所／大和川園

持ち物／水筒  
経費／大和川園までの往復交通費

説明会／行事当日の朝に実施

問い合わせ／大和川園 伊藤・足立  
電 話／06-708-4588

## 広げよう、ボランティア・パワー

# 第4回おおさかボランティアフェスティバル



大阪におけるボランティア・パワーを結集し、明るく楽しいボランティア活動をよりいっそう広げようと、今年も大阪ボランティアフェスティバルが開かれます。

今年は「広く、深く、おおらかに、その時、私はボランティア」をテーマに、ボランティアグループの交流と連帯、一般府民へのボランティア活動の啓発を促進。併せて、来年開催される第5回全国ボランティアフェスティバルのプレ・イベントとして、交流会（分科会）を中心に大阪におけるボランティア活動の到達点を確認し、

今後の課題と目標を明らかにしていきます。

フェスティバルは、「つどい」「交流会」「ひろば」を大きな柱に、高石ともやさんのトークライブや料理教室、ビデオ・映画コーナーなど盛りだくさん。ボランティア関係者はもちろん、一般府民の方々もふるってご参加ください。

【つどい】 11時～16時

会場

ドーンセンター ホール

第1部 式典 11時～12時

オープニング（保育園児の演奏）  
ボランティア表彰

ボランティアメッセージ、作文発表

第2部 発表会 13時～14時

特別報告「阪神大震災ボランティア活動調査の結果から」

大阪市立大学社会福祉学研究室教授・大阪市ボランティア活動懇話会座長・関西福祉系大学救援グループ代表

第3部 「今、時をとめて…これからも…」被災者とボランティアのトークライブ

ゲスト・高石ともや（フォーカ・シンガー、マラソン・ランナー）

【交流会】 13時～16時

### ■学校教育とボランティア活動の新しい風

会場 大阪赤十字会館3階中会議室

報告 岸和田市立直南小学校教諭 豊中市立第16中学校教諭

大谷高等学校教諭 ドーンセンタードー

大阪府立大学社会福祉学部教授

司会 大東市立谷川中学校校長 植田裕之  
西村好恵  
渡辺浩  
西田哲也  
水野雅子  
船曳宏保

日 時 / 12月2日 (土)  
午前11時～午後4時  
会 場 / ドーンセンター、大阪赤十字会館  
参 加 費 / 無料  
問い合わせ / 大阪府社会福祉協議会  
主 催 / 大阪ボランティア推進府民会議  
☎ 06(762)9471

## ■視覚障害者と朗読ボランティア

会場：大阪赤十字会館3階講堂

報告：「点字図書館とボランティアの一歩三脚で」

堺市朗読ボランティアグループ「いずみの会」代表

報告：「目で見る企業人のボランティア活動」

関西電力(株)大阪北支店 小川 晴子

「利用者との係わり、心の「ミニユーモーション」を求めて」

東大阪市朗読ボランティアグループ「やまびこ」会長

吉岡 和代

講演：「企業の社会貢献とボランティア活動について」

松下電器産業(株)社会文化部 北川 恵

「朗読の新しい分野を開拓しよう」

吹田市朗読ボランティアグループ「吹田・曠の会」会長

奥井 秀子

司会：住友生命保険相互会社 横谷 薫

池田 知隆

落語家 笑福亭伯鶴

報告：門真市「若葉会」会長 山本ミツエ

高槻市視覚障害者福祉協会前会長 川人 義明

茨木市ボランティアグループ「あゆみ」 奥村 益子

講師&助言者：大阪府肢体不自由者協会・自助具の部屋



笑福亭伯鶴氏

## ■聴覚障害者と手話サークル

会場：ドーンセンター5階セミナー室

助言者：日本ライトハウス盲人情報文化センター

報告：朗読ボランティア交流推進委員会代表

奥井 秀子

司会：朗読ボランティア交流推進委員会代表

池田 知隆

報告：泉州手話サークル連絡会会长

高岡 愉美子 他

助言者：大阪聴力障害者協会常任理事

島田 一郎

司会：大阪手話サークル連絡会運営委員

奥井 秀子

## ■在宅福祉活動とボランティア

会場：ドーンセンター4階中会議室

報告：高槻市・阿武野地域ボランティアグループ「たけのこ」代表

吉原 晓子

吹田市・痴呆性老人デイサービスボランティア

会場：ドーンセンター4階中会議室

「赤とんぼ」会長 影山 媚子

会場：ドーンセンター4階中会議室

松原市・「在宅介護ボランティア友の会」会長 熱田 光子

会場：ドーンセンター4階中会議室

助言者：大阪府社会福祉審議会委員 大国美智子

司会：市町村ボランティア連絡会代表 矢形 律子

## ■企業の社会貢献とボランティア活動

会場：ドーンセンター4階大会議室

報告：「目で見る企業人のボランティア活動」

関西電力(株)大阪北支店 小川 晴子

「企業の社会貢献とボランティア活動について」

茨木市ボランティアグループ「春待ちフアミローバンド」

音楽グループ「春待ちフアミローバンド」

司会：住友生命保険相互会社 横谷 薫

猪岡 永久

講演：「企業の社会貢献とボランティア活動について」

松下電器産業(株)社会文化部 北川 恵

## ■手作り介護用品・自助具とボランティア

会場：ドーンセンター4階中会議室

報告：門真市「若葉会」会長 山本ミツエ

茨木市ボランティアグループ「あゆみ」 奥村 益子

講師&助言者：大阪府肢体不自由者協会・自助具の部屋

## ■あなたもできる環境保全

会場：ドーンセンター5階セミナー室

報告：環境庁「E-CRAP」

大阪北生活協同組合自主グループ

市町村における環境保全活動

講演：「台所から考える環境保全」

大阪大学基礎工学部工学科 森住 明弘

司会：大阪北生活協同組合 森住 明弘

## ■阪神大震災を振り返って

会場：ドーンセンター5階大会議室

報告：大阪ボランティア協会、西宮応援する市民の会、

親近ING神戸、豊中市社会福祉協議会、被災者の方 他

会場：ドーンセンター5階大会議室

「ひろば」 11時～16時

## ■遊びと保育

展示・即売・体験

遊びと保育

料理教室・高齢者向け一品料理などの試食

ビデオ・映画

## 第5回全国ボランティアフェスティバル開催決定記念

### 第4回 おおさか

# ボランティアフェスティバル

広く、深く、おおらかに、  
その時、私は ボランティア

■日時／平成7年12月2日（土）午前11時～午後4時

■会場／ドーンセンター、大阪赤十字会館

（大阪市中央区 京阪・地下鉄谷町線「天満橋」駅から徒歩約5分）



（高石ともや氏）

#### くつどい

●11時～16時 会場：ドーンセンター ホール

第1部 式典(11:00～12:00)

第2部 発表会(13:00～14:00)

特別報告「阪神大震災ボランティア活動  
調査の結果から」

第3部 「今、時をとめて…これからもing」  
被災者とボランティアのトークライブ  
ゲスト 高石ともや氏(14:00～16:00)

#### 〈交流会〉

●13時～16時

会場：ドーンセンター、大阪赤十字会館

学校教育・朗読・手話・在宅福祉・企業ボランティア・介護用品と自助具・環境保全・阪神大震災の8つのテーマに分かれて意見交換を行い、それぞれのボランティア活動の大坂における到達点を確認するとともに、今後の課題と目標を明らかにしていきます。



朗読交流会パネラー：  
落語家 笑福亭伯鶴氏

#### 〈ひろば〉

●11時～16時 会場：ドーンセンター

■展示・即売・体験コーナー ■遊びと保育コーナー

■料理教室 ■ビデオ・映画コーナー

■主催／大阪ボランティア推進府民会議

■後援／大阪府、大阪市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、「おおさか ふれ愛 夢づくり」推進委員会、朝日新聞大阪厚生文化事業団、毎日新聞大阪社会事業団、産経新聞大阪新聞厚生文化事業団、読売光と愛の事業団、N H K 厚生文化事業団近畿支局、大阪府地域福祉推進財団、大阪21世紀協会

■協力／関西電力、大阪北生活協同組合

■協賛／松下電器産業(株)、日産労連、大同生命社会貢献の会、住友海上火災保険(株)、関西シルバーサービス協会、四天王寺、レストラン門、名鉄観光サービス(株)、島本保険事務所、AIU保険会社、東急観光、(株)中村塗装店、(株)トープ、近畿日本ツーリスト(株)、大阪府福祉寢具会

■お問い合わせ／大阪府社会福祉協議会・大阪府ボランティアセンター ☎ 06-762-9471